

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05289	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	暗号技術によるIoTエコシステムのレジリエンス向上	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	崎山 一男 (電気通信大学・大学院情報理工学研究科・教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
○	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>IoTエコシステムのレジリエンスはIoT社会における重要なトピックであることから、本研究では、漏洩耐性をもつ暗号システムや漏洩検知技術を主な研究対象としている。</p> <p>本研究の取組に関して特に優れた点は、それぞれのチームごとに理論、応用、実装といった個々の分野のエキスパートが集まり、相互理解を進めつつ、漏洩耐性暗号、漏洩鍵の蒸留、漏洩検知技術に関する当初の期待以上の優れた研究成果を上げているところである。これらはトップレベルのジャーナルや国際会議で発表されており、国際的にも高く評価されている。また、海外の著名研究者との共同研究を行っていることも高く評価できる。</p> <p>今後は、IoTエコシステムとしての耐性向上に関わる技術の比重が大きくなると考えられるが、これまで以上に研究者間の連携を強化し、分野をけん引するような研究成果を上げることが期待される。</p>		